

Race Report

AUTOBACS SUPER GT SERIES Round.8 Motegi

November 11-12 2017



勝てる可能性をみせるも悔しい9位で今季を締めくくる

Qualify : 6th (1'47"416) Race : 9th (49 Laps)

作戦の中でチーム力を確信し、迎えた今シーズンのSUPERGT最終戦。舞台は、ポルシェ911 GT3 Rが得意とするツインリンクもてぎだ。D'station Porscheの初年度の目標を「まず1勝」としていたチームにとって、ここはその目標を果たす絶好のチャンスと言えた。

迎えた11月11日(土)は晴天。午前8時45分から行われた公式練習では藤井誠暢がステアリングを握りコースインし、もてぎ初走行となるスヴェン・ミュラーの習熟に時間を割きながら、予選に向けセットアップを進めた。最終的に、このセッションは6番手。やはりもてぎとポルシェの相性は良さそうだ。

続く午後2時からの公式予選。Q1を担当したのは藤井だったが、ここで思わぬアクシデントが。ブレーキが深くなってしまう症状に見舞われたのだ。混戦のなか、Q1突破が不安視されたが、藤井はなんとかアタックを敢行。見事1分47秒873で、Q2に繋ぐと、ミュラーはその期待と午前の習熟の成果をみせ、今季最上位グリッドとなる6番手を獲得してみせた。

明けて11月12日(日)の決勝日は、抜けるような青空の快晴。ピットウォーク時には、第2戦富士でSUPER GT参戦100戦を迎えた藤井の

『グレーデッドドライバー』表彰も行われ、チームの雰囲気は明るかった。そして迎えた午後1時30分からの決勝。スタートを務めるのは、前戦タイでも好走をみせたミュラーだ。

期待に応えミュラーは1周目にひとつポジションを上げ、5番手へ。前を行くのは#11メルセデスだ。ミュラーはなんとか#11メルセデスをパスしようと試みるが、相手も強力。なかなか前に出ることができない。チームはレースに向けて柔軟な作戦を検討していたが、#11メルセデスに前を塞がれている間のロスタイムを削るべく、ミニマムの16周でミュラーを呼び戻し、リヤタイヤのみの二輪交換を行う作戦を決断し、無線で伝えた。

ただ、ペースに勝るミュラーは、13周目の90度コーナーで果敢に#11メルセデスに並びかける。決して無茶なアタックではなかったが、アウト側のD'station Porscheと#11メルセデスが軽くヒット。コースアウトはなく、そのまま5番手でミュラーはピットに戻った。

チームは作戦どおり二輪交換を行いピット作業を実施。コースに戻った藤井の目前には、レース序盤をリードし直前にピットインしていた#4メルセデスがいる。藤井は豪快に2コーナ

ーでオーバーテイクすると、ピットインを済ませていたマシンのなかの首位に浮上した。

このまま好ペースで走れば、待望の今季初勝利が見えてくる――。そう思った直後の19周目、藤井は思わぬ異変を感じ取った。接触の影響で、右フロントタイヤにパンクチャーの症状を抱えてしまったのだ。チームは急いでタイヤを用意し、フロントタイヤ二輪を交換。藤井をふたたび送り出したが、順位は最後尾近くまでドロップしてしまった。

ただ、D'station Porscheのペースは上位と同様のもの。あきらめない藤井は、1周、また1周と順位を上げると、レース終盤まで追いつけの手をゆるめることなく、なんと9位までポジションを上げてフィニッシュ。今季7度目の入賞を果たしたのだ。

もし四輪交換を行っていれば、優勝の可能性も大いにあったレースだった。悔しさは当然ある。しかし、今回のレースは攻めたがゆえのトラブルに泣かされる結果となった。速さは十分。そしてあと少しの強さを身につけられたら、目標の初優勝は目の前だ。D'station Racingの1年目の最終戦は、2年目のさらなる飛躍のためのレースとなったのかもしれない。





Satoshi Hoshino Team Principal

最終戦ということで優勝を狙っていただけに、9位という結果は悔しいです。ただ、藤井選手が終盤がんばってくれて、ポルシェの速さを示すことができたのではないかと思います。今年はD'station Racingの1年目でしたが、SUPER GTは国内外のトップのプロドライバーが競い合う、本当に難しいレースだと再確認しました。そして、このレースで勝つことには本当に意義があることだと思っています。2018年こそはまず初優勝を遂げて、チャンピオンを獲得できるよう努力していきます。応援ありがとうございました。



Kazuhiro Sasaki General Manager

決勝日は別の予定があり、残念ながらレースに立ち会うことはできなかったのですが、ドライバーからもフィーリングがすごくいいと聞き、予選でも今季最上位である6番手を獲得してくれました。優勝を狙える可能性があっただけに、結果は9位ということで残念です。ただ、優勝に値する速さがあったことはチームとして良い材料ですし、今季は1年目のチームで皆がいい仕事をしてくれた。来季は総監督としても初優勝を挙げ、チャンピオンを狙えるチームになるよう、チーム一丸となって努力していきたいですね。



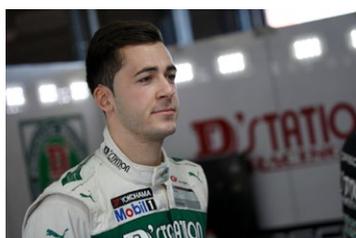
Toshiaki Takeda Team Director

悔しいレースでしたね。今回のレースウィークに入る前に、ドライバーふたりの速さを引き出すためのミーティングを重ねてきましたし、1年を通じて優勝するかしないかというのは、チームとしても違うので、余計に悔しかったです。ただ、攻めた結果なので、ある意味チームもレース後は清々しかったです。1年間みんなで戦ってきて、チームの雰囲気も良くなりましたし、成長を実感できたと思っています。来季はミスなく、初優勝を成し遂げたいと思っているので、さらなる成長に向けてがんばりたいと思います。



Tomonobu Fujii Driver

序盤、11号車と争っていたので、ピットインをして二輪交換する作戦を採り、その時点でのトップに立つことはできたのですが、パンクチャーに見舞われてしまいました。ただその後はペースも速く、9位になることができました。鈴鹿以降クルマもタイヤも良い状態で、チーム力にも満足しています。今回の結果は残念ですが、勝てる速さをみせられましたし、1年目のD'station Racingとして、ランキングも7位で、表彰台もみせることができました。来季はもっといいシーズンを送ることができると確信しています。



Sven Müller Driver

予選では今季最上位の6番手を獲得することもできたし、序盤は5番手を走っていて、優勝を狙える速さがあっただけに最終的な結果は9位で、すごくがっかりしているよ。メルセデスとファイトして接触してしまったのは悔しい。勝ってもおかしくなかったし、表彰台は絶対に狙えるレースだったと思っているよ。今シーズンはすごく楽しかったし、D'station Racingもみんなが良くしてくれた。日本のサーキットも素晴らしかったよ。2018年もぜひSUPER GTに戻ってきたいと思うし、そのときはぜひ期待してほしいね。



Official Website : <http://dstation-racing.jp>

Facebook : <http://fb.me/DstationRacing>

